

## 口. 安達太良・迷沢 (1975.8.8~9)

参加者 CL. オ

8月8日晴、初めての沢で、所要時間がわからないので出合にビバークして、朝から沢をつのようということになった。西さんの奥さんが運転する車で高森川の橋まで送ってもらう。迷沢の少し手前でビバークする。ボンボンの中にもぐりこむが、寒気団のはり出しのため非常に冷え込み、なかなか寝つかれない。

8月9日晴、朝食をとり、5時半に沢に入る。歩きはじめてすぐ、80mほど上のナメが現く。その後何の変化のないだらだらした感じで進むと、右岸にボーリングの跡が見られ、小さな小屋がある。この辺は高さ差もなくあまりおもしろくない。F<sub>5</sub>, F<sub>6</sub>と滝が連続するあたりから、少しブフ変化が見られ、「まもなく滝が見られる」と西さんが言うと、5m程の滝が現われ、西さんの感か今日はよく当る。F<sub>5</sub>をこえるとナメが続きはじめ、途中沢が分かれている。水の流れている方が支流で、支流を少し入ると15mほどのはばらしり滝があり、ここで水の構をする。平流にもどり、涸れたナメを登る。ここからは今までと同じ感じが建り、急勾配になってくる。先に進むと20mの大きな滝に行き当る。途中まで直登し、ハーケンが打ってある手前から左にトラバースし、草付きと岩の境のを登る。そこで小休止。これから先もものすごく急勾配で、雨が降れば滝になりそうだ。F<sub>14</sub>は30m以上ある滝で、2段になっている。最初、西さんが直登してみたが、ホールドがなく、途中からひきかえし、左岸のブッシュを巻くことにした。ブッシュの中も急だが、なんとか登る途中からブッシュの中をトラバースして滝の途中に出ると、そこからなら直登できる。

滝が終ると平らになり、岩の上で小休止。いつもに高さをかせいてしまつたのにはびっくりする。次にびっくりするのは大きな岩で、ここは岩の奥を這つたり、下を走つたり、やみの中を歩きつけ、最後に岩の上に出る。ここから先はすごいブッシュで沢にそってござ続けるが、途中から尾根筋の方がブッシュが無いので、尾根(左岸)に上

り、約1時間ブッシュの中を歩き、脳内岩からの登山道に合流、鉢山の避難小屋に到着する。餘山で昼食をとり、くろがね小屋でラーメンを食べて塩沢に下る。

### （コースタイム）

8月8日 福島(19.45) — 橋(20.45) — ピバー？地点(迷沢)(20.55)

8月9日 迷沢(5.30) — 鉢山(10.30, 11.00) — くろがね小屋  
(11.35, 12.25)  
— 八幡池(12.55, 13.10) — 塩沢(13.55, 14.25) ==

バス二本松(15.20, 15.30) — 福島(16.21)

(元)

## 八. 吾妻・小倉川。(1975.8.17)

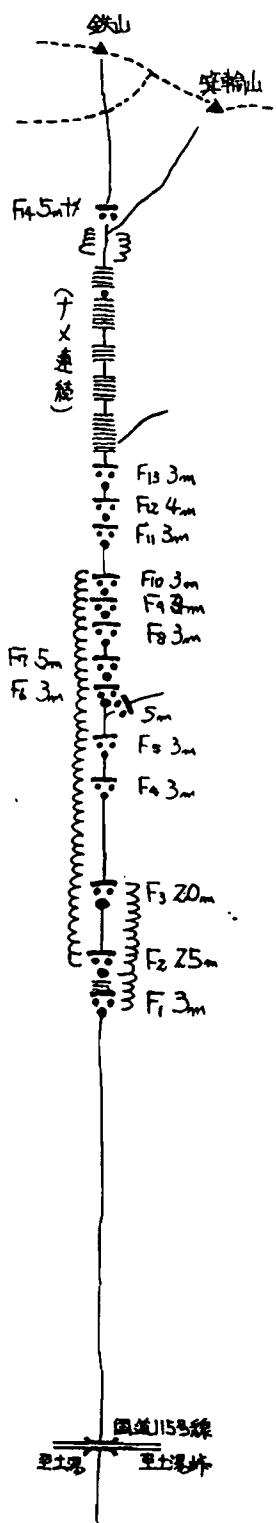
し

非)

福島発6時5分、小雨が途中ふり本降りとなる。蒲谷地登山口から少し入った所まで車で送ってもらう。小倉川出合付の途中で、道をまちがえてもどる。沢登り始の8時5分、一時雨が止んだが、また降りだしてさた。はじ町うまいのない沢で、飛石伝いに進む。30分位歩いたら、途中まちがえた道と通じる道があった。ここから沢を下めうことできる。あまり変化がなく2~3mの小滝が続く。9時10分頃鉢山跡らしい所があり、ここから20分後5mの滝があり、「滝らしW滝がある」と喜び、写真をとる。その後、ア凡の滝は左岸を直登。滝らしい滝とはこの2つ位のものだった。

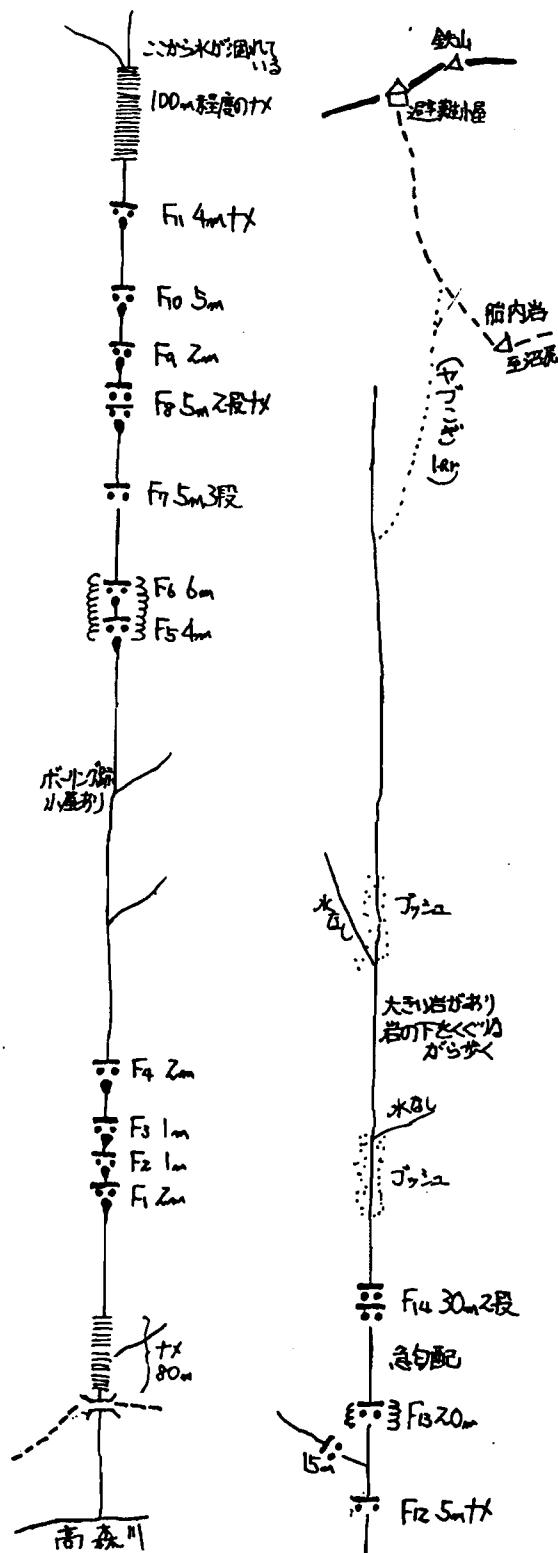
原流の近くになると、涸沢となり、すごいゴーロ状になった大きな岩がたくさんあって急に高度をかせぐ。ゴーロが「絶るヒヤブ」ことである。少量の水が流れ、その上をブッシュがぶわっている。それをかきわけながら前進。ガスがかかり、景場草が確認できず通り過ぎてしまう。東吾妻に向っていることが確認できたので、そのままヤブこぎを続け登山道に出る。山頂より、姥ヶ平を経て淨土平へ。15時のバスで福島に帰る。

滝のものは小滝ばかりだったが、流れには変化に富み、目を楽しませてくれた。また、この沢はすぐややすく、古来神經を使ったこ



東鴉川

(作図: 阿和文)



迷沢

(作図: 加良功)